研究部 原本

昭和二十年度（昭和二十一年一月—三月）研究報告　其四

英語國民成人向　日本語副教材

第一期後半用　實用會話教本

財團法人　言語文化研究所　研究部
（編纂擔當者）　研究員　淺野鶴子
研究員　伊丹美和子

目次

一、道をきく
二、郵便局で
三、驛で
四、電車の中で
五、買物一
六、買物二
七、買物三
八、電話口で一
九、電話口で二
十、訪問一
十一、訪問二

一、全部を通じて○印は外人の話す言葉を示す。

二、外人の使ふ言葉には大体男女いづれか使つても差支へのない程度の會話体を用ゐた。

三、言葉の使ひ方、及び日本の習慣について注意すべき事柄を註に示した。

道をきく

○少々伺ひますが一番近い郵便局はどこですか。（この辺にありませんか。）

△さうですね。一番近い郵便局は、この道を真直に行くと電車通りに出ます。それを右に曲つて五百米位行くと左側にあります。

○右へ曲るんですね。

△さうです。郵便局にポストがありますから すぐわかりますよ。

○何分位かゝりますか。

場所　路上

人物　外人と日本人の男

1「少々伺ひますが」は人に物をとする時のきまり文句。「一寸伺ひますが」が普通用ゐられるが外人には「一寸」の發音がむつかしいから「少々」を用ゐる方が無難。

2「さうですね」は一寸考へる時に言ふ言葉。

3「右に曲る」は「右へ曲る」ともいふ。

◎左へ曲る。

4「すぐわかりますよ」はちきわかります

△十分位のもんでせう。[5]

○どうもありがたう。

△いゝえ。

5十分位のもんでせう。＝十分位しかゝらないでせう。

郵便局で

○これを書留[1]に願ひます。

（女の局員は手紙を受取つて受取を書いて渡す）

○いくらですか。

△四十錢です。

○それから・ついでに葉書を十枚と十錢[2]切手を十枚下さい。

△葉書は・今・品切[3]れです。

○ぢや[4]あ・切手だけ下さい。

（十圓紙幣を出す。）

人物　外人と日本の若い女

場所　郵便局

1書留に願ひます＝書留にして下さい。

2◎五錢切手

3品切れです＝切れてゐます いつもその店に賣つてゐる品が賣切れてない場合に言ふ。

4「ぢやあ」は「では」のくだけた形 接續詞。助詞の場合も「では」は「ぢやあ」となる。

△[5]こまかいのありませんか。

（十圓紙幣をしまつて五十錢紙幣を三枚渡す。）

△[6]はい、十錢のおつり。

○こゝで[7]電報うてますか。

△いゝえ。[8]電報は本局へ行つて下さい。

○本局は遠い[9]ですか。

△ぢきですよ。この前の通りを右へ七八分ばかり行くと向側にあります。灰色のコンクリートの建物です。

○どうもありがとう。

◎それぢやありません。

◎これは私のぢやありません。

5 こまかいのはこまかいお金

6 この「はい」は返事ではない。物を渡す時など相手の注意をひく爲に用ゐる。

7 電報には必ず「うつ」を用ゐる事に注意「うてる」は「うつ」の可能の形。

8 「電報は本局へ行つて下さい」は「電報をうつためには本局へ行つて下さい」の意。本局とは中央郵便局を意味するのではなく、各區にある大きな局を習慣上さう呼んでゐるのである。

9 「遠いんですか」は「遠いのですか」のくだけた形。

電車の中で

（都電の停留所に立つてゐる。）

○東京驛へ行くにはどの電車に乘つたらいゝんですか。

△三田ゆきです。

○何[1]番の電車ですか。

△えー[2]と、二番です。

（二番の電車が來てそれに乘る。中で傍の人にきく。）

○この電車は東京驛へ行きますか。

△東京驛へいらつしやるんですか。

場所　都電の中

人物　外人と日本人の男

1 都内電車は前につけてゐる番號によつて運轉系統がわかる。例へば2番は白山ト三田間、18番は板橋ー神保町といふやうなわけである。

2 「えーと」は何かを思ひ出さうとする時考へる時などに發する言葉。

3 「それぢやあ」は規範的な形「それでは」は一つかは進化しくだけた形。改まつた時のみ用ゐられる。「それぢやあ」かは、專ら「それなら」「そんなら」もこの場合用ゐる。

○えゝ、さうです。

△それぢやあ、和田倉門で降りればいゝんです。[3]

○さうですか。どうもありがたう。隨分こみますね。[4]

△えゝ、此頃は、バスも省線もひどくこみます。

（電車がゆれた時誤つて誰かの足をふんでしまふ。）

×あいたた[5]

○あゝ、失禮しました。[6]

×いゝえ

○和田倉門はまだですか。

△まだなかなかです。[7]

○いくつ目ですか。[8]

△こゝから六つ目ですか、和田倉門にきたら教へてあげますよ。[9]

○どうぞお願ひします。

---

4 「さうですか」は軽く言ふと理解した事を表はす。語尾に力をいれると、念を押して聞きかへす意になる。

5 「あいたた」は痛い時に思はず發する言葉。その他に女の人なら「おゝ痛い」「痛いわ」なども用ゐ、乱暴な男は「いてえぞ」「いてえな」などともいふ。

6 「失禮しました」は自分の粗忽をわびる時の言葉。單に「失禮」「でもよい。その他に「すみません」「ごめんなさいなども用ゐる。「ごめんあそばせ」は女の丁寧な言ひ方「失敬」は男が親しい間柄の者に對して用ゐる。

7 「まだなかなかです」は「目的地へ行くまでにはまだかなり時間かかゝる」の意。「まだ大分あります」ともいふ。

8 「いくつ目ですか」は「何度目にをまつた停留所で降りればいゝんですか」の意

9 「六つ目」は「六度目に止つたところ」の意。

◎この次です。

◎次の次です。

驛で

（切符賣場の窓口で）

○横濱。一枚。いくらですか。

×二圓四十錢。

（改札口で切符を切つてもらつて。ホームへ入る。傍の人にきく。）

○少々伺ひますが、横濱へ行くにはどこで乘るんですか。

△こゝでいゝんです。

○横濱まで乘換なしですか。

△いゝえ、乘換があります。

場所　驛

人物　外人と日本人の男

1こゝでいゝんです＝こゝでのればいゝんです

○どこで乗換ですか。

△品川で櫻木町行におのりなさい。[2]

（櫻木町といふのかよくわからない）

○えゝ、何行ですか。

△サ・ク・ラ・ギ・チョオ。

○サクラギチョオ。[3]あゝさうですか。

ありがたう。

△いや。[4]

2 櫻木町行＝櫻木町行の電車

3 「あゝさうですか」は「わかりました」の意。

4 「いや」は禮をいはれた事に對する答「いゝえ」「どういたしまして」等も用ゐる。

買物　一。

△いらつしやいまし。[1]

何を差上げませうか。

○クリスマスカードありますか。

△はい。こちらにございます。[2]

（店員はカードをみせる。客はその中の一枚をとる。）

○これはいくらですか。

△一枚七圓でございます。[3]

（各はガラス函の中に陳列してあるのをさして）

○それをみせて下さい。

場所　お土産を賣る店

人物　客　外人

店員　若い日本の女

1 「いらつしやいまし」は客を迎へる時のきまり文句。「いらつしやい」「いらつしやいませ」ともいふ。

2 こちらにございます＝こつちにあります。「ございます」は「あります」の丁寧な言ひ方。

3 「……でございます」は「……です」の丁寧な言ひ方。

△これでございますか。

○いゝえ。そのとなりの。

（店員は示されたのを出して渡す。）

○これはいくらですか。

△七圓五十錢でございます。

○これとおなじのはもうありませんか。[4]

△この手は生憎これつきりでございます。[5][6]

○ぢやあ。これとそつちを三枚下さい。

みんなでいくらですか。

△二十八圓五十錢でございます。

（客は百圓紙幣を渡す。）

△百圓おあづかりいたします。[7]

（店員は金と品物を待つて引込む。次に包んだ品物とつり錢を持つてくる。）

△お待たせいたしました。[8]

七十一圓五十錢のおつりでございます。

お調べ下さいませ。[9]

（店員は品物とつり錢を客に渡す。）

△ほかに何かいかゞでございますか。[10]

○カレンダーありますか。

4 「おなじ」は「おんなし」ともいふ。

5 この種類のもの

6 相手の希望に添へない場合に用ゐる副詞。「お生憎さま」だけで品物のない事を表はす場合もある。

7 渡された金額について間違の起らないやうに念を押すために言ふ。

8 「お待たせいたしました」は實際に人を長く待たせた場合にも勿論用ゐられるが、品物やつり錢などを渡す時は別に長く待たせるわけではないので、「お待遠上様」といふのである。

9 「お調べ下さいませ」は「つり錢に間違のないやうに調べてくれ」の意。「どうぞ、お調べ下さい」ともいふ。

10 「ほかに何かいかゞでございますか」は「ほかに買物はないか」の意。「何もいらない」といふ場合へは「他にはない」の意。「何もよいは別にありませんが支度なしでなかなかめてもない時は買はないでいゝ」といふ。

△只今11切れてをりますか來月の始頃には又入ると思ひます。

○あゝさうですか。

（客は人形をながめてゐる。）

△お人形でございますか。

（店員は人形を出してみせる。）

これは昔の女の姿。

これは京都の舞子。

これは今の子供でございます。

○これはいくらですか。

△五十圓でございます。

お値段はどれも同じでございます。

○もう少しやすいのはありませんか。

（店員は別のを出して）

△この方は三十圓でございます。

少し小さくなります。

○これを下さい。

（客は代金を渡す。）

△有難う存じます。

お包みいたしませう。

（店員は人形を包んでわたす。）

△おまたせいたしました。

△毎度有難う存じます。

「何かいかゞですか」とか「何かお入用になりませんか」とか言はれて何もいらない時は只「別にいりません」といへばよい。

11 切れてをります＝品切れです

12 ◎もう少し大きいのはありませんか。

◎もう少し品のいゝのはありませんか。

13 「毎度……」は商人が客を送り出す時のきまり文句。

（客は店を出る。）

買物　二。

（百貨店の中で人に聞く。）

○[1]着物の賣場はどこですか。

×三階の東側でございます。

○どうも有難う。

（三階の着物賣場へくる。）

○[2]もしもし。着物を見せて下さい。

△[3]かしこまりました。

（店員は着物を出してみせる。）

△こちらは[4]袷で裏がついてをります。[5]

場所　百貨店

人物　客　外人
　　店員　若い日本の女

1 ◎玩具の賣場
　◎寫眞機の賣場

2 「もしもし」は呼かけの言葉。

3 「かしこまりました」は承知した意を表はす。普通、店員が客に對して、又召使が主人に對して用ゐる。

4 「袷」裏のついた着物

5 「……てをります」は「……てゐます」の丁寧な言ひ方。

6 「單衣」裏のない着物。夏の着物。

こちらは単衣[6]でございます。

○なかなか綺麗ですね。

着物を着るのに必要なものを一通りみせて下さい。

△はい。少々お待ち下さいませ。

（店員は着物の他に羽織[7]・長襦袢[8]・帯[9]・帯揚[10]・帯〆[11]を持つてくる。客は長襦袢を手にとる。）

○これは何ですか。着物と同じやうなものですね。

△長襦袢でございます。着物の下に着るものでございます。

○これが帯ですね。

△はあ。これをかう折つて身体にまいて後で結びます。

○この赤と白のちゞんだ布はなんですか。

△これは帯揚と申しまして帯が下らないやうに使ふのでございます。前で結びます。

○なんといふ生地ですか。

△羽二重[12]にかのこしぼりをしたものでございます。

○かのこしぼりですか。面白いものですね。この程度のものを一通りそろへるにはいくら位かゝりますか。

7 「羽織」着物の上にきる上衣。普通寒さを防ぐため。

8 「長襦袢」着物のすぐ下に用ゐる。普通着物より派手なもので作る。際には着物と調和するやうなを着物の際半襟をかけてそれより出してきる。

9 「帯」巾三十センチメートル位・長さ四メートル位の細長いもの。後で結ぶ。

10 「帯揚」帯からさがらないために用ゐるもの。普通しぼりなどの美しい布

11 「帯〆」帯留ともいふ。帯の上に用ゐる飾りのひも。

12 「はあ」は「はい」に同じ。女の言葉「えゝ」より丁寧。

13 「かのこしぼり」「しぼり」は生地をつまんで糸でしぼつて染めて模様を表はしたもの。「かのこしぼり」はごく細い斑点模様。

14 「お召しになる」は「着る」の敬語

△純日本式に着物をお[14]召しになるには、このほかに半襟[15]・足袋[16]・草履[17]などかいりますから、どうしても七・八千圓はかかると思ひます。

○七・八千圓。高いもんですね。

△お土産になさるのでしたら[18]羽織はいかがでございますか。お[19]羽織でしたらドレスの上にお召しになれます。

○さうですか。それぢやあ羽織をみせて下さい。

（店員は羽織を四・五枚持つてくる）

△これは着羽織と申しまして、御覧の通り全体が一つの模様になつてをります。

○どれにしたらいゝでせう。みんな麗ですね。

△青系統のお洋服にはこれ、赤系統にはこれかよろしいか[20]と存じますが、こちらのこの着羽織でしたら大抵の色によくつりあります。

○これは何の模様ですか。

△御所車[21]に櫻の花でございます。

○生地はなんですか。

紋付のこれは羽織でございます。こちらの方は普通の模様ものでございます。

15 「半襟」長襦袢の襟にかける布。着物と調和した色合のものを用ゐる。薄色でしゆうをしたものなどが多い。

16 「足袋」足にはくもの。先が二つに分れてゐる。色は白が普通。

17 「草履」皮・フエルト・等をかさねてつくつたはきもの。

18 「でしたら」は「なら」に同じ。より丁寧な言ひ方。

19 「お羽織」は羽織の丁寧語。女の言葉ではいろいろのものに「お」がつく。

20 「よろしいかと……」この場合の「か」は疑問よりもむしろ謙遜な氣持をふくんでゐる。

21 「御所車」平安朝時代の貴人の乘用車、模様化して多く用ゐられる。

△ちりめんでございます。

○いくらですか。

△二千八百圓でございます。

○ぢやあ・これを下さい。

（客は千圓紙幣三枚を渡す。）

△三千圓おあづかりいたします。

（材料を持つて行つて包んでくる。）

△お待たせいたしました。二百圓のおつりでございます。

有難うございました。

場所　繪畫商

人物　客　外人

　　店員　日本人の男

1「お目にかける」は「見せる」の敬語

2 版畫は德川時代に發達した浮世繪に用ゐられ始めたもので木版色刷の繪である。

3 浮世繪は德川時代に起つた繪の一派。美人・役者の似顔・風俗・風景など民衆の生活に親しみあるものをかいた。

4 廣重。安藤廣重。浮世繪師・風景畫にすぐれてゐる。一八五八年歿

5 江戸名所百景は江戸百ヶ所の風景を集めた讀き物。

6 東海道五十三次。江戸時代に江戸日本橋から京都三條大橋に至る間の五十三の宿場。宿場とは徒歩で旅行をした時代に旅人を泊める設備のあつた地點。單に宿ともいふ。

買物　三・

△いらつしやいまし。

なにをお[1]目にかけませうか。

○版[2]畫を見せて下さい。

△かしこまりました。

外國の方にはやはり江戸時代の浮[3]世繪かよろしうございませうね。

これは廣[4]重のものでございます。

○これは雨の景色ですね。

△廣重の江[5]戸名所百景の一つ・「大橋あたりの夕立」でございます。

こちらは東[6]海道五十三次の中の「龜山

の雪の朝」こちらは同じく「三島の宿」でございます。

今度は北齋[7]のものをお目にかけませう。北齋には富士山をかいたものが澤山ございます。これはその一つ。「浪裏富士」[8]・少し變つた景色でございます。

○浪のかき方が面白いですね。

今度は人物の繪をみせて下さい。

△人物の繪では歌麿[9]などが代表的なものでございませう。

これは歌麿の美人の夏姿でございます。

○この手に持つてゐるのは何ですか。

△ウチワ[10]でございます。あつい時あほぐのに使ひます。

○現代の畫家のものにはどんなのかありますか。

△現代のものはこちらに陳列してございます。どうぞ。

（額に入れて壁にかけてある繪の方へ案内する。）

○右から三番目のは誰がかいたのですか。

△伊東深水[11]かいたので「吹雪」といふ題でございます。

○その一つおいて隣は？

△堂本印象[12]の「化粧」でございます。

7 北齋。葛飾北齋。浮世繪師・風俗畫にすぐれてゐる。一八四九年歿。

8 「浪裏富士」は浪のうしろからみた富士山をかいた繪。

9 歌麿。喜多川歌麿。浮世繪師・美人畫の大家。一八〇六年歿。

10 團扇。竹に紙を張つたもの。普通圓い形。扇子のやうにたゝむことができない。

11 伊東深水。現代畫家。美人畫にすぐれてゐる。

12 堂本印象。現代畫家。

○その次は？

△竹内[13]栖鳳の「夕立」。「夕立」といふおどりの中の一場面でございます。

○それをもう少し明るい所へ持って行って下さい。

△はい。

（箱を明るい所へ持ってくる。）

○額ぶちが氣に入りませんか・別のと取[14]換へるわけにはいきませんか。

△額ぶちでしたらまだいろいろございますからお[15]氣に召すのとお取換へいたします。

○ちゃあ・さうして下さい。

（別の額に入れてみせる。）

△これではいかゞでございますか。

○その方がいゝやうですね。さうすると値段はいくらになりますか。

△畫が千二百圓・額が四百圓ですから兩方で千六百圓になります。

○[16]なかなかいゝ値段ですね。少し負かりませんか。

△お値段の方はこれで隨分勉強してお[17]りますんで……他にまだ何かお[18]ひできませんか。

13 竹内栖鳳。現代の最も有名な畫家の一人。一九四四年歿

14 取換へるわけにはいきませんか＝取換へることはできませんか。

15 「お氣に召す」は「氣に入る」の敬語。

16 なかなかいゝ値段ですね＝隨分高いんですね。

17 勉強してをります＝やすくしてゐます「勉強する」は「値段をやすくする」の意。

○さつきの富士山と美人の繪をもらひませう。

△この富士山の方は版が少し古くなつてをりますから一割[19]おひきいたしませう

○全部でいくらになりますか。

△富士山が百圓のところを一割ひきます[20]から九十圓・美人が二百二十圓・夕立が千六百圓で合計千九百十圓になりますが特別に勉強いたしまして千九百圓にいたしておきます。

○とゞけてもらへますか。

△はい・おとゞけいたします。

○今こゝで九百圓はらつてあとの千圓は繪をとゞけてもらつた時小切手で渡します。それでいゝですか。

△はい・よろしうございます。

では御住所を伺つておきます。[21]

○大森區田園調布四丁目五十七

△お名前様は[22]

○ヘンリー・ホール

△では明日後前中に間違ひなくおとゞけいたします。

どうも有難う存じました。

---

18 お願ひできませんか＝買つていゞけませんか。

19 一割おひきいたしませう＝一割やすくしませう。「おひきいたしませう」の敬語。「ひきませう」は

20 「…のところ」は「…であるが」の意。

21 「伺つておきます」はこの場合「きかせて下さい・教へて下さい」の意。

22 「お名前様は」は「あなたの名前は何ですか」の意。商人が客に對して用ゐる言ひ方。「様」は勿論敬意を表して添へたのである。